

動物たちとのふれ合い

人と長い歴史を共に暮らしてきた身近な動物を、伴侶や家族、友達と同様に位置づけ、コンパニオンアニマル（伴侶動物；CA）と呼びます。日本では1985年頃から使われ始めたことばで、従来のペット（愛玩動物）のことです。

人々の生活の変化に伴って、動物たちの存在意義や価値、役割が変わり、近年の社会環境の中で見直され、家族の1人、社会の一員として位置づけられるようになってきました。コンパニオンアニマルの条件は、人と共に暮らし、その動物の獣医学、習性や行動、人と動物の共通感染症が解明されていることで、現在のそれらの代表は犬と猫です。

そして、CAPP（コンパニオン・アニマル・パートナーシップ・プログラム）とは、「人と動物のふれあい活動」のことです。高齢者施設や病院・子供教育を中心に行われるこの活動は、動物の温もりや表情を感じることで「精神的なやすらぎ」や「能動的な活動」を活発にする事が期待できます。高齢者施設、病院、学校などを訪問し、動物のもつ温もりや優しさにふれていただく、(公社)日本動物病院協会を中心としたボランティア活動です。現在は、コロナ禍から、映像などによる「オンライン方式」で実施中とのことでした。



写真1



写真2



写真3

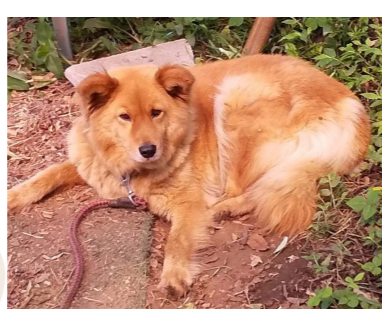


写真4



写真5

健康づくり と安らぎ

私と動物たちとの関わり合い

「ikigai」は、「sushi」のような国際語で、「生きがい」を意味するそうです。最近、教えてもらいました。

現在の「メリー」が我が家に来たCAドッグの4頭目になります。3頭目の「ベル」は、猟犬の雑種で子犬から育てました。その頃は、大変な甘えっ子で、雷が大嫌い、雷雨が来るとパニック状態でした。ベッドこそ、共にはしませんでしたが、たまにやって来る孫達にも大変慣れるほど、かわいがっていました。また、足が速く、私の良き散歩友達。私がスクールガード「ひまわり会」のメンバーだったため、同様の趣旨である「ワンワンパトロール」にも参加してもらいました（写真1 感謝状）。

写真2は、我が家へ来た直後の「メリー」です。{此処は何処？貴方は誰？どうして私を此処へ連れてきたの？早くおうちへかえりたい！}という顔でした。担当の女性獣医師から、絶対に放してはいけません。二度と帰ってこれなくなります。というアドバイスを背に連れてきました。無理ありません。この子は10歳になるまで、遠い南の海辺の町育ちでした。リタイア後、東京から引っ越されたご夫婦に飼育された系統の3代目です。残念ながら、ご夫婦の施設入居などにより放置されている間に、保護犬となってしまったのでした。

我が家は、しばらくの間は、「ペットロス」の状態でした。家族で相談し、小生の年齢から、10歳ぐらいのお友達候補を探すことにしました。動物愛護センターのご厚意と縁により、「メリー」と出会うことが出来ました。

自立心が強く、しばらくの間は、なかなかコミュニケーションがとれませんでした…。そこで、ご褒美の手作りご飯（写真3）や散歩、毛繕い、ボディタッチなどのふれ合いから、信頼関係が徐々に生まれ仲良しとなりました。今は、写真4のようにゆったりと過ごしています。最近、小生や家族への警戒心は薄らいできましたが、放置されている間に「虐待」されたのでしょうか。びくついたり、おびえることもあります。

動物愛護とか動物福祉が叫ばれるようになりましたが、動物たちとの双方向での関わり合いにより、私たちが得られるものが多く、CAのセラピー効果により、シニアの健康作りや癒やし、更に「認知症予防」も期待されることです。

写真5は、ある乗馬クラブのお試しレッスンでの一コマです。これからも、何らかの形で動物たちとのふれ合いを続けていきたいと考えています。

記事担当／広報委員長 岩淵 功

ハローシニア佐倉

(公社)佐倉市シルバー人材センター



(公社)佐倉市シルバー人材センター ホームページ

米寿・喜寿をお迎えの皆さまへ

令和4年2月吉日

会員互助会 会長 岡本 恒雄



この度、令和3年度の会員互助会による「長寿お祝いの会」で米寿・喜寿を迎えられた会員の皆さま、誠におめでとうございます。

例年2月、皆さまにお集まり頂き、お祝い金・記念品を贈呈、演芸等の式典を開催致しておりましたが、昨年につづき新型コロナウイルス感染拡大するなかで会員の感染予防を最優先にして、本年度も式典は中止しましたこと、ご理解願います。

皆さまには、佐倉市シルバー人材センターの会員として、長年にわたり就業されるなか、会員仲間との交流を深め、ご自身の健康維持を図り、元気に米寿・喜寿を迎えられましたことをお喜び申し上げます。

会員互助会より、記念にお祝い金・記念品を贈呈致します。

これからも御身大切になされ、元気に就業、また仲間との交流を深められ、ご活躍されますことを祈念しお祝いの言葉に代えさせていただきます。

また、今後とも会員互助会へのご理解とご協力の程、宜しくお願い致します。

お祝いの言葉

令和4年2月吉日

会長 田中 豊嗣



この度、米寿・喜寿をお迎えになった皆さまおめでとうございます。

当センターの会員として就業に互助会にご活躍頂き御礼申し上げます。

本来ならば互助会主催の「長寿お祝いの会」でお元気な皆さまにお会いしお祝いの言葉を述べさせていただきますところですが、今年も新型コロナ感染拡大防止の為「長寿お祝いの会」は中止となりました。本当に残念です。

当センターは、昨年の10月に創立40周年を迎えました。

皆さまにお配りした記念の写真集「おもいで」を見ながら楽しかったことや辛かったことなど思いだして頂いたことと思います。

皆さまのご活躍が後輩の皆さまに引き継がれて、創立40周年を迎える事が出来ました。これからも後輩の皆さまとの触れ合いを通して、センターの発展にご支援をお願いする次第です。今や「人生100年時代」と言われています。今後とも健康第一で末長くシルバー人生を謳歌して頂けます様にご祈念申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。



末永いご活躍を願っています

御礼の言葉

令和4年2月吉日

長寿祝 代表 高橋 毅 (志津地区12期)



この度は、米寿・喜寿のお祝いをしていただき、あたたかいお心のこもったお祝辞・金一封・記念品を賜りありがたく厚くお礼申し上げます。

佐倉市シルバー人材センター様より仕事を与えてくださり、優しく暖かく支援していただき、お陰様で充実した日々を送らせていただき感謝しております。

これからも健康に留意して頑張っで行こうと思っております。

佐倉市シルバー人材センター様の今後益々のご発展を祈念しつつ、ご挨拶の言葉に代えさせていただきます。

- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------|-------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|---------|-------|-------|-------|----------|-------|---------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|---------|------|------|------|
| 岡田 典子 | 實藤 国昭 | 高比良 昭三 | 及川 健一 | 長澤 卓美 | 猪越 弘一 | 松崎 澄雄 | 服部 悦江 | 森脇 聰典 | 宮澤 満雄 | 織本 常一 | 田中 善夫 | 丸山 栄一 | 櫻井 仁子 | 白井・千代田地区 | 奈良 春美 | 金森 日出男 | 小林 久夫 | 吉田 昌之 | 平部 貴子 | 遠藤 敏明 | 山崎 美壽都 | 仁禮 都子 | 松野 壽男 | 加藤 紬子 | 櫻井 秀幸 | 鶴巻 正和 | 松田 延儀 | 佐倉・和田地区 | 高橋 毅 | 志津地区 | 祝 米寿 |
| 難波 亜姫子 | 能勢 直人 | 内海 洋 | 高宮 今子 | 齋藤 四郎 | 井澤 勝彦 | 野中 元恵 | 清宮 幸江 | 大谷 博之 | 小倉 悦子 | 根郷・弥富地区 | 吉田 勇 | 砂川 暁 | 富村 侃之 | 永井 克彦 | 尾島 信江 | 久保田 八重子 | 藤村 昌一 | 寺館 優子 | 若尾 浩子 | 南 安平 | 山口 邦夫 | 井上 敏彦 | 遠藤 高作 | 磯部 隆 | 葛谷 真澄 | 竹田 文子 | 竹田 宗司 | 額賀 正勝 | 志津地区 | 祝 米寿 | |

市役所はじめ公共の仕事に従事する「公共」の職群では、
会員がいろいろな場所で、いろいろな仕事で活躍しています。
今回は「酒々井リサイクル文化センター」で
自転車のリサイクルの仕事をしている
立田栄一さん取材しました。

自転車リサイクル



職場紹介

繋がるシルバーの仕事

昨年の2月号で、放置自転車の監視と移送の仕事をするシルバー会員を紹介しました。保管期間を過ぎた放置自転車は、シルバー会員の手で、志津と寺崎の保管場所から酒々井町にある「リサイクルセンター」に移送され、次のシルバー会員の仕事にバトンタッチされています。

立田さんの職場は、アウトレットに近い「酒々井リサイクル文化センター」の敷地内にある、自転車と家具の「リサイクルセンター」。リサイクルの事業は佐倉市と酒々井町の共同事業であるため、シルバー会員も、佐倉市から立田さんと酒々井町から2名の合計3名が従事する体制になっています。各自が月10日の勤務で働くシフトを組んでいます。



酒々井リサイクル文化センター

15年の大ベテラン

立田さんが2代目として前任者からこの仕事を引き継いだのは15年前。自転車のパンク修理などは自分でしていましたが、リサイクルのための部品の解体や修理などの技術は無く、全くの素人から始まりました。



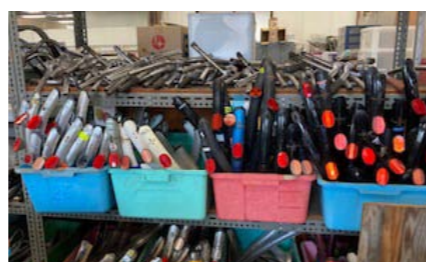
作業風景

今や15年の大ベテランですが、それでもリサイクルの仕事は簡単ではないと言われます。特に難しいのが変速ギアの据え付けと調整で、1台の自転車を完成させるのに、1日から1日半かかりますが、その半分の時間がこれに費やされるとのことです。



快適な職場環境

作業をする「リサイクルセンター」は広く、備蓄されている100種類以上の部品が、更にサイズ別に棚に整然と保管されています。「放置自転車のいわばゴミを、喜んで使って頂く自転車に蘇らせる、社会に役に立つ良い仕事をさせて頂いていると思っています。」と立田さん。「冷暖房が効いた、快適な職場で働いています。」と笑顔で穏やかに話される姿が印象的でした。



備蓄部品

リサイクル自転車の販売は、現在2~3カ月毎の特定の日に行われています。販売日は佐倉市、酒々井町清掃組合のホームページで公表されます。通常30台程度が廉価な一律料金で販売されています。リサイクル家具は「リサイクルセンター」の建物内で常時展示され販売されています。



リサイクル家具

「酒々井リサイクル文化センター」のご担当の皆様と立田さん、取材へのご協力、ありがとうございました。

取材担当／広報委員 小野寺 弘孝

スマホでもご覧ください



←ホイール調整

動画

影絵塾9のこと

佐倉市民カレッジ第9期生が平成15年の文化祭で影絵劇を上演。この卒業生が『影絵塾9』を設立して平成16年4月から活動を開始。上演は主に幼児や児童に向けて、年に7回ほど。年14回という記録もあります。3年かけて制作した最新作『女化狐(メバケキツネ)』を令和3年12月に上演して130回目を達成です。

手作りするところは

劇の原作は主に民話です。原作以外はすべてサークルメンバーで創ります。脚本書き、背景と人形の原画制作、厚紙で人形作り、音声・映像編集、演出は得意な人で手分けし、人形作り、人形組み立て、声優、人形演技は全員でします。上演できるのは、現在は7作品です。

お得意の分野は

先ずは人形の原版制作です。原画はすべて残っています。次に、人形の関節構造を考えます。劇中では、人形の頭や上体、手足などを動かして喜怒哀楽を表現します。これ等の部分を動かし易いように試作・調整します。部品調達と加工も私の仕事です。最新作『女化狐』では、人形の完成に約1年かかりました。

いよいよ稽古入りですね

人形類を整えると劇の仕立てです。配役を決め、台詞を練習して録音。これを聴きながら演技稽古を繰り返して役

趣味と人との



影絵塾9 副代表 酒井 信男さん

『影絵塾9』の副代表としても大活躍です。

『手作り影絵劇』が趣味の酒井信男さん(佐倉・和田地区5班)取材しました。佐倉市を拠点にするボランティアサークル

やっつて来るぞ！ 影絵劇だ！

に入り込み、他のメンバーからの演技ヒントも参考にして演技指導を受け、皆の気持ちが詰まった約15分の作品が完成します。最新作『女化狐』では、家の主人、村の子供、狐、村人、狩人、狐に化けた女、母親などが演じられました。

影絵劇の魅力は

会場が一体になる瞬間でしょうか。或る保育園での話です。山へ栗を採りに行った寺の小僧が山姥に喰われそうになって必死で寺に逃げ帰ったが、夜中で門の扉は閉まっていた。扉をドンドン叩く音と叫び声に気付いた和尚はゆ〜っくりと身支度。と、園児から大きな声援『早く助けてあげて！』。スクリーンの裏側では、メンバーは互いに見合ってニコリ。最高潮になると、話に入り込んだ子供達の息遣いはスクリーンの裏で演じる側に伝わり、嬉しくなります。

取材には代表の河西久美子様もご一緒いただき、活動の様子をととても楽しく聞かせていただきました。今の心持ちは『新しいメンバーの加入とコロナ禍により自粛している活動の再開』とのこと。サークルのホームページは『影絵塾9』で検索できます。

取材には代表の河西久美子様もご一緒いただき、活動の様子をととても楽しく聞かせていただきました。今の心持ちは『新しいメンバーの加入とコロナ禍により自粛している活動の再開』とのこと。サークルのホームページは『影絵塾9』で検索できます。

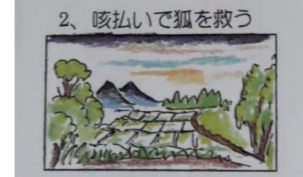


上:人形(狐)の原画(制作:酒井さん)

下:原画を基に制作した首の動く人形(狐)



最新作『女化狐』タイトル



場面背景の原画(全15場の第2場)



おっかあの人形を操作する酒井さん(右端)



スクリーン裏で人形を操作するメンバー酒井さん(左から2人目)

取材担当／広報副委員長 徳野 廣一